

## 協働・共創の一体的取組について（進捗報告）

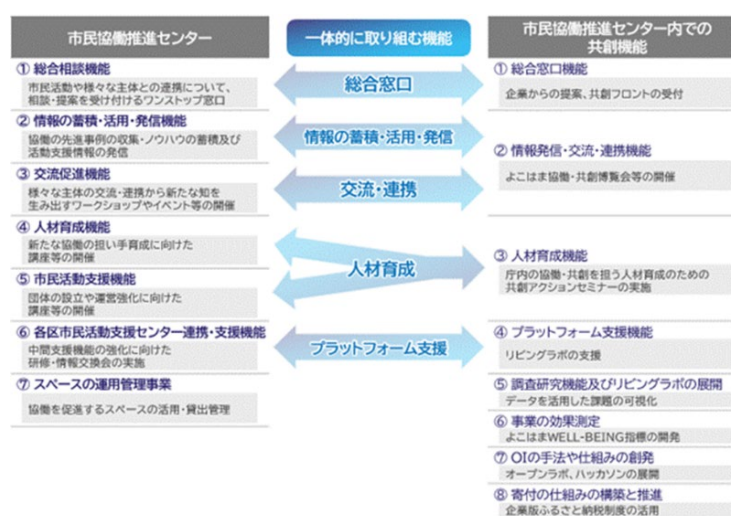
令和5年6月から市民協働推進センターを中心に進めている協働・共創の一体的取組の試行実施について、進捗のご報告をいたします。

### 1 はじめに

今回の試行実施では、協働と共創の「一体的取組」を進めることでそれぞれの取組に相乗効果を生み出すことを目指しています。また、試行実施が6月から開始したため、市民協働推進センターでは令和5年度事業計画をベースとし、一体的取組の試行に取り組んでいます。

### 2 試行実施する5つの機能

- ①総合窓口
- ②情報の蓄積・活用・発信
- ③交流・連携
- ④人材育成
- ⑤プラットフォーム支援



### 3 各機能における検討及び取組状況

一体的取組につきましては、週1回程度、市民局市民協働推進課、政策局共創推進課、横浜市市民協働推進センター、よこはま共創コンソーシアムの4者で定例会議を行って、検討を進めています。これまでになかった場であり、各々で進めてきた取組や事業についての共有をはじめ、上記の5つ機能を中心に相乗効果が期待できる取組について、検討を進めています。

#### (1) 総合窓口

協働・共創の取組に対する相談等への一体的な対応、デジタルを活用した受付や各分野の専門性の高い人材との迅速なマッチング等について検討を進めています。また、一体的な相談対応を視野に、市民協働推進センターを活用した共創に係る相談対応（共創フロント・共創相談会）を実施しています。

#### (2) 情報の蓄積・活用・発信

社会課題や地域課題の解決に向け、市民活動団体やNPO法人、企業などの多様な主体と行政との協働・共創の取組をさらに推進していくため、新たな公民連携の発信・対話

の場として『ヨコラボ 2023 (YOKOHAMA Co-lab. 2023)』を開催しました。(別紙参照)

また、市庁舎低層部でのイベントと連動し、市民活動団体や企業等と活動 PR や SDGs 推進に向けた取組を実施しました。

その他、情報の蓄積・活用として、双方が有する NPO 法人・企業情報の一元化及び活用について検討しています。

### (3) 交流・連携

『ヨコラボ 2023』で、地域で活動している小学生から大人まで、多様な主体が対話・交流するプログラムを実施しました。

また、10月に実施した共創ダイアログ(社会課題解決に取り組む行政、NPO 団体、企業などが集い、課題共有やマッチング等を図るイベント)について、交流・連携機能もさらに意識して進めていきます。

### (4) 人材育成

市内中小企業を対象に、協働事例、共創事例を紹介し、協働・共創の取組について理解を深めるセミナー及び地域人材の発掘・育成・拡大に向けて、『ヨコラボ 2023』で「よこはまの未来の作戦会議」等を実施しました。また、リビングラボでの小学生から大学生を巻き込んだ活動について引き続き推進していきます。

### (5) プラットフォーム支援

地域のプラットフォームへの支援や中間支援組織の機能強化に向けた検討を行っています。各区の具体的な課題の照会を行い、個別の案件について、課題解決に向けた意見交換を行いました。今後、区や各区センター、リビングラボなどを巻き込んだ課題解決への取組の検討・実施を通じて、地域のプラットフォームの充実を目指します。

また、『ヨコラボ 2023』のプログラム「次世代の公民連携 -ヨコラボ-」では、プログラムを通じて分野を越えた中間支援組織間の連携の広がりと期待を発信しました。

## 4 今後について

令和5年度の試行実施の結果検証をし、令和6年度以降の当面の目標を定めるなど、より効果的な一体的取組の実践を目指します。

## ヨコラボ 2023(YOKOHAMA Co-lab. 2023)

## 【概要】

## 目的

協働・共創、新たな公民連携の発信・対話の場として実施  
子ども・若者と地域活動の楽しさや魅力を共有する場を設定

## 日時

令和5年10月30日(月曜日)～11月4日(土曜日)

## 場所

横浜市役所アトリウム、協働ラボ、パシフィコ横浜アネックスホール ほか

## 参加人数 1,161人

NPO・企業・地域	62
イベント観覧者	412
小中高校生・専門学 校生	485
保護者	101
関係者	101
<b>合計</b>	<b>1.161</b>

## 関係団体・関係部局

NPO・企業・地域	20団体
参加校	19校
市関係部局	10部局



# ヨコラボ 2023(YOKOHAMA Co-lab. 2023) 主なプログラム

## 1 オープニングセッション「次世代の公民連携-ヨコラボ-」【10月30日】

市民協働推進センターとよこはま共創コンソーシアム、協働・共創の2者に加えヨコハマSDGsデザインセンターで、分野を越えた中間支援組織間の連携の広がりと期待することを発信しました。



## 2 「市民協働の経験から見えてきた協働・共創の未来」【10月30日】

### (事例発表・パネルディスカッション)

特定非営利活動法人 鶴見川流域 ネットワーキング、市民活動団体 ちよこっとレスキュー隊からの2つの協働事業の報告をベースに、行政とのクロストークを通じて、協働するための工夫や視点を深掘りするとともに、今後の共創の可能性について発信しました。



# ヨコラボ 2023(YOKOHAMA Co-lab. 2023) 主なプログラム

## 3 「ハマッコラボ」【11月1・2日】

社会課題について協働・共創の取組をしている子どもたちによる活動のプレゼンテーションや開発した商品の販売等を市民協働推進センターを中心に市庁舎低層部で実施しました。

鶴見小学校(鶴見区)	「“ツルスイ”の展示・取組発表」:鶴見川の生き物の水槽展示、ゲーム、取組発表
西前小学校(西区)	「廃食用油の活用」:廃食用油の告知 「使わなくなった本の販売」: 読まなくなった本を販売。売り上げは寄附 「エコパレード」:リアカーで小学校から市庁舎までのゴミ拾い。環境対策の発表
みなとみらい本町小学校(西区)	「横浜がんばレモンプロジェクト」:製品化したレモンサイダーの紹介、販売、パネル展示 「生態系とゴミ問題の調査」:みなとみらいの水際線の生態系とゴミ問題のヒアリング
瀬ヶ崎小学(金沢区)	「黒船せっけんや金沢八味の取組紹介及び販売」:製品販売、チラシによるPR



## 4 「よこはまの未来の作戦会議」【11月4日】

企業・地域の方と児童・生徒が連携し、地域貢献等に関する取組を行う「はまっ子未来カンパニープロジェクト」に取り組んでいる子どもたちが、自分たちの活動紹介や他校の子どもたちとの交流、未来の横浜について対話する場として実施しました。



子どもたちが交流・意見交換することで活動のヒントを得たり、意識を高める機会となりました。

社会課題の解決を目指す

# ヨコラボ

YOKOHAMA Co-lab.

## 2023

2023

10.30 月

11.4 土

当日参加可・参加無料

※一部事前申込制

会場



パシフィコ横浜



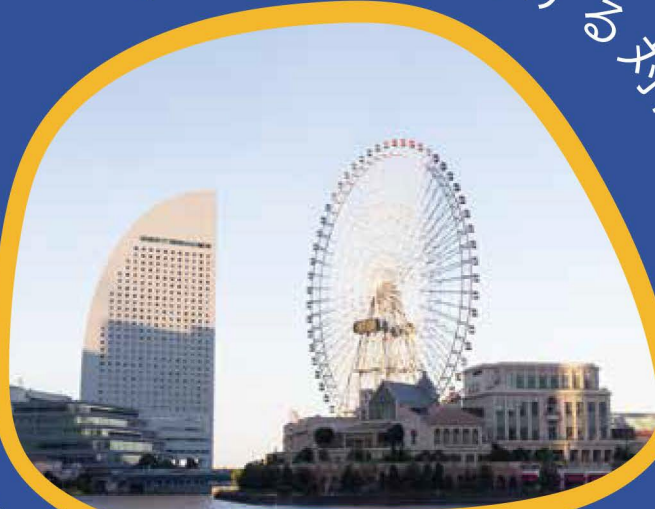
横浜市庁舎

主なプログラム

- 10/30 「次世代の公民連携 - ヨコラボ」  
「市民協働の経験から見えてきた協働・共創の未来」
- 10/31 よこはま共創コンソーシアムによるパネルディスカッション  
「竹山団地×すすき野団地で取り組む団地再生プロジェクト」  
「公民連携/共創フロントを通じた連携のチカラ」
- 11/1,2 ハマッコラボ (小学生や活動団体等による様々な展示)
- 11/4 「よこはまの未来の作戦会議」「よこはまの未来の実践会議」  
「よこはまのミライの「輪郭」 アイディア会議」

複雑化・多様化する社会課題の解決に向けた  
新たな公民連携の発信・対話の場、「ヨコラボ」。  
「はまっ子未来カンパニープロジェクト」と  
連動したことも達の取組の発表や議論の場、  
子ども・若者が地域活動の楽しさや  
成功体験の経験を積むための機会を作ります。

未来につなげる対話の場



# プログラム

10月  
30

市庁舎 1階アトリウム

- 11:00-12:00 オープニングセッション「次世代の公民連携 - ヨコラボ」  
ファシリテーター：伊吾田 善行（横浜市市民協働推進センター センター長）  
登壇者：前川 知英（よこはま共創コンソーシアム 代表）  
麻生 智嗣（ヨコハマ SDGs デザインセンター 総合コーディネーター）
- 13:30-16:00 事例紹介・パネルディスカッション「市民協働の経験から見えてきた協働・共創の未来」  
モデレーター：北原 まどか（特定非営利活動法人 森ノオト 理事長）  
登壇団体：特定非営利活動法人 鶴見川流域ネットワーク、ちょこっと子育てレスキュー隊、  
港北区 区政推進課、都筑区 こども家庭支援課
- 16:00-17:00 市民活動チラシコンテスト表彰式 / 交流会

市庁舎 1階  
市民協働推進センター  
スペース AB

- 9:30-12:00 講演・パネルディスカッション / ヨコハマは宝の山 2023～まちをブランディングしよう  
内容：保有資産（未利用地等）の利活用を題材とした庁内ワーキング  
登壇者：藤原 徹平（横浜国立大学大学院 准教授）ほか

10月  
31

市庁舎 1階アトリウム

- 10:00-10:55 パネルディスカッション 1  
「この時代にコンソーシアムが必要とされる理由、みんなの声を集めて見えてきたこと」  
進行：内田 裕子（経済ジャーナリスト イノベディア代表）  
登壇者：大澤 幸生（東京大学大学院工学系研究科システム創成学専攻教授）、  
よこはま共創コンソーシアム構成企業ほか
- 11:00-11:55 パネルディスカッション 2  
「真の横浜コード実現、共創が育まれる産官の対話の在り方」  
進行：前川 知英（よこはま共創コンソーシアム 代表）  
登壇者：江森 克治（特定非営利活動法人 横浜スタンダード推進協議会 理事長）  
別府 幹雄（株式会社ガバメイツ 代表取締役）  
松本 圭市（横浜市経済局中小企業振興課 課長）  
古瀬 謙一（横浜市政策局共創推進課 課長）
- 12:00-13:00 セッション「竹山団地 × すずき野団地で取り組む団地再生プロジェクト」  
登壇者：藤原 徹平（横浜国立大学大学院 准教授 よこはま共創コンソーシアム）  
大森 西三郎（非営利活動法人 KUSC 神奈川大学サッカー部監督 よこはま共創コンソーシアム）  
藤森 茂和（非営利活動法人 KUSC 神奈川大学サッカー部 よこはま共創コンソーシアム）  
小柴 健一（一般社団法人 団地暮らしの共創 事務局長 よこはま共創コンソーシアム）ほか
- 14:00-15:30 共創アクションセミナー「公民連携 / 共創フロントを通じた連携のチカラ」  
内容：地域交通問題の解決に向けた新たな公共交通サービス実証実験の紹介や関係企業とのクロストーク等  
進行：政策局共創推進課  
登壇団体：株式会社 NTT ドコモ、東急株式会社、株式会社 EPARK  
株式会社日建設計総合研究所、都市整備局都市交通課

11月  
1-2

市庁舎 1階  
市民協働推進センター  
協働ラボほか

- 10:00-15:00 ハマッコラボ  
「よこはまの未来の作戦会議（6/2 開催）」に参加した各校（鶴見小、瀬ヶ崎小、  
西前小、みなとみらい本町小）による展示、プレゼンテーション等  
6月2日の「よこはまの未来の作戦会議」に参加した子どもたちが、その後、同世代の仲間たちや  
地域の大人たちと共にかなる実践を積み重ねてきたのか、その取組について子どもたち自身が発表・  
展示するイベントを市民協働推進センター協働ラボを中心に展開します。

11月  
4

パシフィコ横浜  
アネックスホール  
F201・F202

協力：パシフィコ横浜

- 9:45-12:00 よこはまの未来の作戦会議  
・子どもたちの活動報告・発表  
・「大人になった時にどういう横浜になっていたらいいか」をテーマに「はまっ子未来カンパニー  
プロジェクト」参加校の子どもたちと企業が対話するワークショップ
- 13:00-15:00 よこはまの未来の実践会議  
鶴見・金沢・瀬谷・青葉の4つのエリアで活動している子ども・若者を中心とした、今後の地域活動の  
持続可能性を語るワークショップ
- 15:15-16:30 よこはまのミライの「輪郭」アイデア会議  
「スポーツが果たす地域振興とキャリア形成」をテーマとしたワークショップ  
参加者：学校法人岩崎学園ほか